

都市再生整備計画 事後評価シート
赤穂地区

平成31年3月

長野県駒ヶ根市

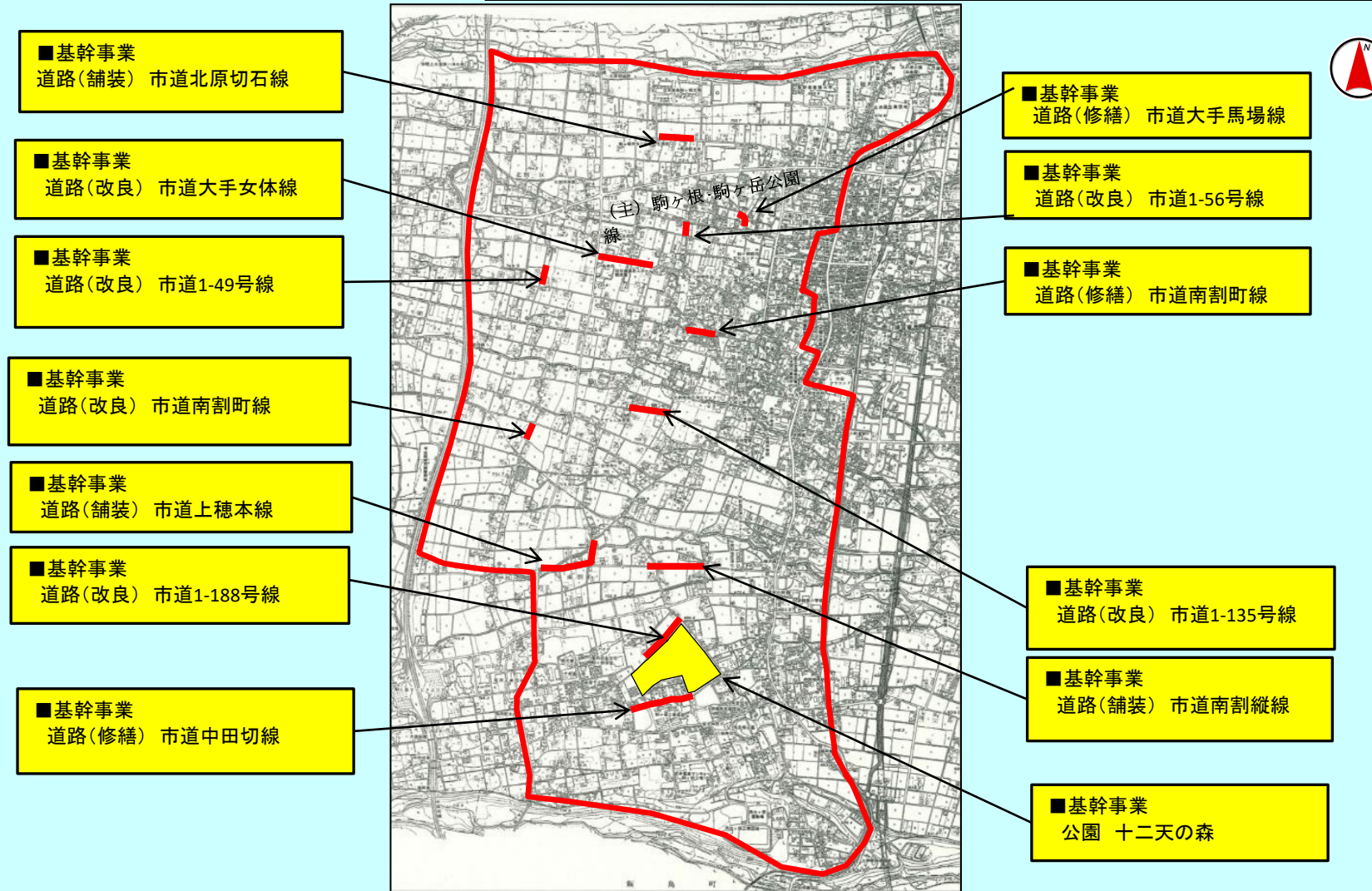
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県		市町村名	駒ヶ根市		地区名	赤穂地区		面積	1006.9			
交付期間	平成26年度から平成29年度		事後評価実施時期	平成30年度		交付対象事業費	502	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	道路:市道大手女体線 外9路線、公園事業:十二天の森整備									
			提案事業	舗装修繕事業、市民満足度調査、まち普請支援事業									
			事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	当初計画から削除した事業		基幹事業	道路事業:市道 1-231号線		市道 1-231線:別計画にて整備する方針となったため。			市道 1-231:影響なし				
			提案事業	地域創造支援事業:南割縦線、上穂本線、北原切石線 事業活用調査:市民満足度調査 まちづくり活動推進事業:まち普請支援事業		地域創造支援事業:基幹事業へ計画変更したため。 市民満足度調査:調査集計業務を外委託せず職員にて対応したため。 まち普請支援事業:市単費にて実行したため。			道路事業:影響なし 市民満足度調査:影響なし まち普請支援事業:影響なし				
新たに追加した事業		基幹事業	道路:市道1-499号線 道路:市道 南割縦線、上穂本線、北原切石線 地域生活基盤施設:地域防災施設 市民体育館改修工事		市道1-499号線:未舗装道路であり、整備により避難施設への移動において安全性が向上するため。 市道南割縦線、上穂本線、北原切石線:地域創造支援事業から、基幹事業へ計画変更したため。 地域生活基盤施設:地域防災計画に定める避難施設のうち、老朽化により耐震面に問題があり、非常時における住民の安全確保のため。			市道 1-499号線:目標及び指標は据え置く 市道 南割縦線、上穂本線、北原切石は基幹事業への切り替えによるもので、目標及び指標への影響なし 地域生活基盤施設:安全性・安心度に対する市民意識調査の満足度ポイントを追加					
提案事業		-		-			-						
交付期間の変更		当初	平成26年度～平成29年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-					
変更		-		-			-						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	指標1	自然観察会参加人数	人	100	H24	150	H29	229	56	△	あり なし ●	H29年度の自然観察会が雨天実施だったこともあり、最終的な評価値は目標値に達しなかった。H27年度の事業では多くの事業が重なり目標を大きく上回っている。H27～H29までの平均は121人となり目標には届かないものの従前値は上回っている状況となった。	2019年度 12月
	指標2	市民満足度調査 自然・共生に対する満足度	Pt	3.03	H23	3.12	H29	3.13	3.06	△	あり なし ●	最終評価値は、目標のポイントまで到達しなかったが、平地林の整備および、林を活用した自然観察会なども開催し、H27モニタリング時は目標値を超えた。	2019年度 2月
	指標3	市民満足度調査 道路環境における満足度	Pt	2.74	H23	2.80	H29	2.81	2.80	○	あり なし	地元からの要望及び通学路としての利用路線を精査し、緊急度の高い路線から着実に整備を実施したことが、満足度向上に寄与したと考えられる。	-
	指標4	市民満足度調査 安全性・安心度における満足度	Pt	3.15	H23	3.24	H29	3.30	3.28	○	あり なし	多くの市民が利用する体育館を耐震化し、避難施設としての利用にも供することにより満足度向上に寄与したと考えられる。	-
指標5										あり なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	市民へ満足度に関するアンケート調査(H27)を実施し、事業進捗に伴う効果及び指標の検証を行った。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 計画期間終了後においても、道路環境や防災環境などの地域住民アンケートを定期的実施し、市民の満足度を確認する。					
	住民参加プロセス	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-					
	持続的なまちづくり体制の構築	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-					

様式2-2 地区の概要

赤穂地区(長野県駒ヶ根市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値(実績値)	
【大目標】安全・安心で快適な生活環境の整備と豊かな自然を守り育て、魅力的なまちの創造	自然観察会参加人数	単位: 人	100 H24	150 H29	56 H29
小目標① 住宅地に残された貴重な自然平地林を次世代に継承し、豊かな自然環境の保全と自然保護意識の高揚。	市民満足度調査自然・共生に対する満足度	単位: Pt	3.03 H23	3.12 H29	3.06 H29
小目標② 通学路線を中心とした生活道路の整備と公共施設の耐震化による緊急・災害時の安全性の向上。	市民満足度調査道路環境における満足度	単位: Pt	2.74 H23	2.80 H29	2.80 H29
小目標③ 市民と行政による協働のまちづくりの推進。	市民満足度調査安全性・安心度における満足度	単位: Pt	3.15 H23	3.24 H29	3.28 H29



まちの課題の変化	<p>○人口減少に伴い、施設の統廃合、長寿命化などの対応が迫ってきている。公共施設の管理計画に合わせた中で、コンパクトなまちづくりを行っていく必要がある。</p> <p>○大規模地震が切迫している中で、防災施設が安心して施設が利用できることは市民の願いであるため、現状有効に利用できる施設・設備の維持を継続する。</p>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>・十二天の森の利用促進に向け、学校を中心としたPRを行なうとともに、新たな利活用の推進を進めていく必要がある。あわせて利用者の把握に努めていく。</p> <p>・避難拠点として指定されている公共施設において、避難指定施設の一部は耐震化されていないものもあるため、今後も耐震化を推進する必要がある。また地域住民が一定期間避難生活を送るための防災用品の整備や、有事の際に利用できる災害用トイレ等の衛生環境を整備し、万が一の場合に備える必要がある。加えて危機管理における事前防災情報伝達及び災害時の災害情報に関する情報提供ツールの整備も必要事項となる。</p> <p>・生活道路の改善を計画的に進めてきているが、引続き、通学路の危険箇所や車両のすれ違いができない狭隘な道路における拡幅改良などを進め、歩行者の安全性を優先的に確保する必要がある。また、災害等の緊急時に、地域住民がスムーズに避難施設へ移動できるよう道路環境の計画的な整備も必要である。</p>